

第2回志摩市都市計画マスタープラン等策定委員会 議事録

日時：令和8年3月13日（金）14時00分～16時00分

場所：志摩市役所 403・404 会議室

【出席委員】

國學院大學 観光まちづくり学部 地域マネジメント研究センター 教授	浅野 聡
三重大学大学院 工学研究科 建築学専攻 教授	三宅 諭
志摩市都市計画審議会 会長	東原 達也
福祉法人志摩市社会福祉協議会 会長	前田 正典
志摩市農業委員会 会長	西尾 重昭
三重外湾漁業協同組合 和具事業所 管理課長	竹内 保徳
一般社団法人志摩市観光協会 副会長	磯和 雅志
志摩市商工会 青年部長	上田 圭佑
志摩青年会議所	椿 聡士
一般社団法人三重県建設業協会 志摩支部 支部長	西尾 亮
志摩建設事業協同組合 副理事長	田岡 一馬
公益社団法人三重県宅地建物取引業協会 伊勢志摩支部 支部幹事	福岡 正治
志摩市自治会連合会	平野 仁巳
三重県 県土整備部 都市政策課 都市計画班 班長	安野 武治
三重県 志摩建設事務所 総務・管理・建築室 建築開発課 課長	鈴木 隆義
環境省 中部地方環境事務所 伊勢志摩国立公園管理事務所 所長	柘植 規江
一般公募	前川 愛美
一般公募	中林 伸子

【傍聴者】

3名

【事務局】

志摩市都市計画課 寺尾課長、逢阪課長補佐兼都市計画係長、里中主査、上村主事
(株)地域計画建築研究所（アルパック） 清水、竹中、城本、大田（記録）

【欠席委員】

伊勢農業協同組合 常務理事	竹内 隆典
鳥羽磯部漁業協同組合 理事	山川 範恭
三重県建築士会志摩支部 副支部長	濱口 雄
志摩市 建設部 部長	西井 清弘

【配布資料】

- ・事項書
- ・資料 1【資料】第2回都市計画マスタープラン等策定委員会
- ・資料 2 志摩市現況調査・分析報告書
- ・資料 3 志摩市旧町別の概況
- ・第2回 志摩市都市計画マスタープラン等策定委員会名簿
- ・席次表

進行役	内 容 (口 述)
1. 開会	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定刻となったため、ただいまから「第2回志摩市都市計画マスタープラン等策定委員会」を開始します。委員の皆様には、お忙しいところをご出席いただき、誠に感謝を申し上げます。本日の進行は、事務局である都市計画課が務めます。 ・ まず開催要件を確認しますが、本日の委員会出席者は18名、欠席者は4名です。委員会設置要綱第6条第2項に規定される半数以上の出席を得ているため、本会議が有効に成立したことを報告します。なお、本日の欠席者として、伊勢農業協同組合の竹内委員、鳥羽磯部漁業協同組合の山川委員、三重県建築士会志摩支部の濱口委員、および志摩市建設部の西井委員から、事前に欠席の連絡をいただいています。 ・ また、本委員会は原則として公開としており、後方には傍聴席を設置しています。 ・ あわせて、正確な議事録作成のために会議内容を録音しています。作成した議事録は、委員長および副委員長の確認を経た後、委員に配付するとともに、志摩市のホームページ上でも公開します。 ・ それでは、委員会設置要綱の規定に基づき、ここからの進行を浅野委員長に委ねます。委員長、一言挨拶をいただいた上で進行をお願いします。
2. あいさつ	
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日もお忙しい中、第2回委員会にご出席をいただき、厚く御礼を申し上げます。第1回委員会において委員から寄せられた意見を反映させ、市民アンケートを実施しました。本日はその結果報告を行うとともに、新しい計画の策定に向けた現行計画の評価、および課題の把握を進めていきます。後半の議題では現在志摩市が抱えている具体的な課題について議論を行うため、委員の皆様には積極的に質問や意見を出していただくようお願いします。それでは、配付された資料に基づき、議事を進めます。まず、前回の振り返りについて事務局から説明をお願いします。
3. 議題	
(1) 前回の振り返り	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の策定委員会での協議内容を確認するため、振り返りを行います。表紙には両計画の策定工程を記載しており、現在はピンク色で囲んだ「現状把握と課題整理」の段階にあります。1ページに記載の通り、第1回委員会は令和7年12月4日に開催され、そこでは計画の基本方針やスケジュール、策定体制について確認を行いました。 ・ 特に議論となった市民アンケートの実施方法については、委員からの提案を受け、二段階で実施することにしました。令和7年度に基本的な認識を把握する第1弾アンケートを行い、令和8年度により詳細な意向を把握する第2弾アンケートを行います。2ページおよび3ページには、第1回委員会で頂戴した意見とそれに対する考え方をまとめています。策定体制において各課の部長級職員と意見交換する機会を求める声があった点については、関連する議題がある

	<p>場合に事務局から出席を要請し、連携を図っていくこととしました。また、アンケートの周知方法など、幅広くいただいた意見も調査設計に反映させています。以上で前回内容の振り返りを終了します。続いて、議題の「現況調査報告」について、受託事業者であるアルパックから説明をお願いします。</p>
<p>(2) 現況調査報告</p>	
<p>アルパック</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現況調査の結果について報告させていただきます。 ・ 資料の6ページについて、ここでは人口から財政まで、計7項目の調査項目を整理しています。時間の都合上、本日は別途配布の「現況調査・分析報告書」から内容を抜粋し、主要な4項目に絞って説明します。 ・ 8ページを見ると、志摩市の総人口は平成12年以降減少が続いており、将来推計においても減少が続く見込みです。年少人口および生産年齢人口はいずれも減少しており、急速に高齢化が進行しています。 ・ 9ページにある人口動態を確認すると、平成27年以降は自然増減と社会増減の双方がマイナスとなっており、出生数の減少と人口流出が継続しています。特に通勤・通学における流出人口が流入人口を大きく上回っています。 ・ 11ページから14ページにかけて、生活機能施設の徒歩圏人口カバー率を算出しています。鉄道は500メートル、バスは300メートルを徒歩圏と定義した場合、令和2年時点の人口カバー率は65.9パーセントであるが、令和32年には対象人口が約半分にまで減少します。商業施設、医療施設、高齢者福祉施設についても同様であり、現状のカバー率は維持されるものの、徒歩圏内の人口密度が大きく低下するため、生活サービスの維持が困難になることが懸念されます。 ・ 15ページおよび16ページには、津波浸水想定区域と人口・施設の分布を重ねた分析を記載しています。津波浸水想定区域内に居住する人口は令和2年時点で8182人であり、市全体の約18パーセントを占めます。公共施設の状況については、医療施設の約4割、公共建築物の約半分が浸水想定区域内に立地しています。 ・ 17ページにある通り、宿泊施設の約半分も浸水想定区域内に位置しており、特に鵜方駅周辺や阿児地域の沿岸部に集中している実態が明らかとなりました。歴史的な経緯から、災害リスクを抱えたまま市街地が形成されてきた状況がうかがえます。 ・ 18ページ以降に土地利用の状況をまとめています。志摩市は自然的土地利用が約8割を占め、宅地は1割程度にとどまっています。 ・ 19ページから21ページに示す通り、農地転用や新築開発は志摩磯部駅や鵜方駅周辺の阿児地域に集中しています。一部では浸水想定区域内での開発も見られます。 ・ 22ページの空き家分布を見ると、沿岸部や駅周辺の既存市街地で多く発生しており、低密度化が進んでいます。 ・ 23ページにあるインフラ維持管理コストについては、今後30年間で公共建築物の更新に年間平均32億円が必要となるが、現在の普通建設事業費は年間約16億円であり、将来的に財政負担が倍増する見

	<p>通しです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 24 ページから 27 ページに産業動向を記載しています。市内の事業所数および従業者数は長期的に減少しており、地域産業の規模縮小が進んでいます。特に農業と漁業においては経営体数と担い手の減少、高齢化が深刻な状況にあります。 ・ 一方で 27 ページの観光業については、観光入込客数がコロナ禍前の水準である約 395 万人にまで回復しています。しかし、日帰り客が半数以上を占めており、滞在型観光への転換が課題となっています。 ・ 28 ページから 30 ページにまとめを記載しています。人口減少と低密度化が進む中で、公共交通や都市機能の維持が困難になる恐れがあります。そのため、人口減少を前提とした都市構造への転換、および防災リスクを踏まえた土地利用誘導が次期計画における最重要課題となります。 <p>以上が現況調査の報告です。</p>
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員の皆様、ただいまの説明内容について再確認しておきたい点や質問はありますでしょうか。なければ、後半の課題整理の際にあわせて議論する時間を設けたいと思います。
(3) アンケート調査結果	
アルパック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民アンケート調査の結果について報告します。本調査は、都市計画マスタープランの改定、および立地適正化計画の策定にあたり、まずは市民の基本的な意向を把握することを目的に、第 1 弾として実施したものです。今後は、具体的な課題や都市づくりの方向性について意向を把握するための第 2 弾調査も予定しています。本日は時間の都合上、単純集計の結果報告を中心に進め、適宜クロス集計の結果についても補足します。 ・ 調査期間は令和 8 年 1 月 5 日から 1 月 19 日までの約 2 週間であり、住民基本台帳から無作為に抽出した市内在住の満 18 歳以上の市民 3000 人を対象としました。調査方法は郵送調査とウェブ調査を併用し、配布数 3000 件に対し、回収数は 1367 件、回収率は 45.6 パーセントとなりました。 ・ 資料の 34 ページに、志摩市全体の将来像としてどのようなまちを目指したいかを聞いた結果を記載しています。「交通網が整った、誰もが移動しやすい便利なまち」「買い物など日常生活が便利なまち」「商店や企業・事業所などの事業活動が活発で、働く場所があるまち」とする回答が特に多くなっています。 ・ 44 ページには、現状の志摩市の暮らしの満足度について、10 個の評価項目ごとに聞いた結果を示しています。満足側の割合が高い項目は「日常の買い物のしやすさ」「自然環境の豊かさ」「まちなみ・景観の美しさ」であり、不満側の割合が高い項目は「医療・福祉施設の利用しやすさ」「子育て・教育施設の利用しやすさ」「働く場の充実度」「移動のしやすさ」などです。日常の買い物のしやすさについて居住地別にみると、浜島小学校区や磯部小学校区において、不満側の割合が比較的高い傾向にあります。また、まちの安全性について年齢別にみると、18 歳から 29 歳、あるいは 30 歳代など、年代が若いほど不満側の割合が高い傾向にあります。 ・ 55 ページに、現在の生活行動として日常的な買い物や買回り品の買

	<p>い物をどこで行っているかを示しています。日常的な買い物については、約9割が市内を利用しており、そのうち鶴方小学校区が約60パーセントと多くなっています。居住地別にみると、大王、志摩、磯部の各小学校区ではそれぞれの区内で買い物をすることが多い一方、浜島小学校区については鶴方小学校区が買い物先としての割合が最も高く、浜島と鶴方の生活行動上のつながりが把握されます。</p> <p>63ページの買回り品の買い物については、市内と市外がそれぞれ約40パーセントと同程度であり、市内では鶴方小学校区が約80パーセントを占め、市外では伊勢市が約70パーセントを占めています。買い物先までの交通手段は、いずれも自家用車がほとんどを占めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 71ページに通勤先を示しているが、市内が約50パーセント、市外が14.3パーセント、その他約30パーセントが無職または在宅勤務等となっています。年齢別にみると、18歳から29歳の市外通勤割合が37パーセントと比較的高く、若年層が市外へ通勤している実態が把握されます。交通手段については、買い物と同様に自家用車が多くを占めています。 84ページに、今後のお住まいの地域での居留意向を記載しています。約80パーセント以上が今後も住み続けたいという意向を持っていますが、年齢別にみると、18歳から29歳で「市外に移りたい」とする回答が27.4パーセントと比較的高くなっています。住み続けたい理由は「地域への愛着・誇りがあるから」「自然環境が良いから」が多く、移りたい理由は「公共交通が不便だから」「日常の買い物が不便だから」「医療・福祉サービスが不十分だから」など、生活利便性に関わる項目の割合が高くなっています。 94ページからは、南海トラフ地震などの自然災害に対する認識を示しています。最も懸念している災害は「地震」「津波」が大部分を占めています。災害リスクの把握状況については、65パーセントがハザードマップ等で危険性を把握している一方、30パーセント以上が「知っているが危険性は把握していない」または「マップがあることを知らない」と回答しています。また、災害の危険性が高い区域における都市づくりの意向として、「住宅などの新規の開発や建築を規制すべき」が34パーセント、「安全な場所への住み替えを促進すべき」が26.3パーセントとなっており、どの年代においても6割以上が都市づくりとしての対応が必要であるという認識を持っています。 100ページ以降については、回答者の属性となっており、その内容については資料をご覧いただければと思います。以上で、市民アンケート結果のご報告とさせていただきます。
委員	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの年代別の回答割合は何ページに記載があるのでしょうか。どのような属性の人が回答しているのか、年代別の割合を教えてください。将来のまちを担う世代の声がもっとあるとよかったと考えており、5パーセントの人の声であっても丁寧に拾っていく必要があると思います。 また、私自身は個人事業主であるが、農業や漁業を含めて、志摩市の個人事業主の割合や働き方の全体像が把握できる資料はあるので

	しょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料の 100 ページに年齢別の割合を記載しています。65 歳以上の割合が 52.7 パーセントと非常に高いですが、これは人口構成にあわせて年代別の配分を行って配布した結果であり、配布割合と回答割合に大きな相違は見られませんでした。 産業データについては、現在は事業所数レベルの統計にとどまっております。個人事業主の事業スタイルや規模を含めた詳細な実態把握やデータ整理は未実施です。今後、必要に応じて現状が把握できるような整理を行っていきます。
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果に関連する質問や意見があれば、後半の課題まとめの際にも出してもらえればと思います。続いて「(4) 現行計画の評価」について、事務局から説明をお願いします。
(4) 現行計画の評価	
アルパック	<ul style="list-style-type: none"> 平成 21 年に策定された現行都市計画マスタープランの評価結果について説明します。本資料は、分野ごとに「方針」と「進捗状況」を整理し、総括を行ったものです。本日は、時間の都合もあり、個別の取組について詳細というよりも、全体として何が進み、何が課題として残っているのかという観点で説明します。 大きな傾向として、次の 3 点に整理できます。 1 点目は、ハード整備が一定程度進展している点です。道路、防災施設、港湾、広域ごみ処理施設など、県や国との連携による基盤整備は概ね着実に進んでいます。具体的には「伊勢志摩連絡道路の事業化」「鵜方磯部バイパスの整備完了」「広域ごみ処理施設の整備」「津波避難タワーの整備」などが成果として挙げられます。 2 点目は、土地利用誘導等の取り組みがあまり進んでいない点です。鵜方駅周辺の拠点形成、街なか居住の誘導、沿道環境地区での立地誘導、用途地域の活用などは、方針として掲げているものの、具体的な動きや実現には至っていません。 3 点目は、景観・自然保全の取り組みが着実に進んでいる点です。景観計画や条例に基づく届出制度の運用、国立公園区域での規制、再エネ条例による調整など、保全型の取り組みは着実に運用されています。一方で、地区計画の活用や民有地緑化、街なみ形成の面的展開などは未実施となっています。 総括すると、道路や防災関係のインフラ整備、景観形成、自然保全には一定の成果が見られるが、拠点形成や土地利用誘導においては十分ではないと言えます。
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> 資料 111 ページの評価マークにおいて「計画通り継続中」とされる項目が非常に多いですが、これらは、継続することによって将来実現できる見通しがあるものと、見通しが立たないまま継続となっているものが混在している可能性があります。実現可能性の高さに応じて、いくつかのグループに分けることができるのではないのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 内容によっては分類が難しいものもあるが、マスタープラン改定の際には見直しが必要という認識です。評価の分類方法については、検討を進めていきたいと思えます。

浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今日決める必要はないですが、今後どちらの方向性に進めていくのか、事務局で検討してもらいたいです。特に土地利用系において、努力して実現できるところは強調して記載していけるようにしてもらいたいです。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・説明では具体的にどこが該当しているのかが分かりにくかったです。実現できないことばかりを記載せずに、5年、10年といった段階ごとに目標を設定し、確実に達成できるものを具体的に記載してほしいです。次に計画を見た際に、達成項目が多くある状態であることを期待します。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現行評価を一旦まとめてもらったが、計画策定後、見直しができずに今日に至っているという経緯があると思います。今回は、次回の改定までにどこまで進めたいかという目標を記載するようにはしていただきたいです。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・評価が「継続中」というだけでは評価とは言えないと思います。現状で進捗がどこまで図られているのかを、きちんと評価してもらいたいです。
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・評価を明確にすることが次の方向性の明確化につながるため、表現を検討してもらいたいです。続いて、議題4の「都市計画マスタープランの検討における課題の整理」について、事務局およびアルパックから説明をお願いします。
(5) 都市計画マスタープランの検討における「課題」の整理	
アルパック	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議論の前提となる「都市計画マスタープラン改定における課題の整理」について説明します。まず、この課題整理の考えですが、上段に示している4つの視点をもとに分析を行っています。 ・一つ目は基礎調査で、人口動向や土地利用、都市構造などの客観的な現状です。 ・二つ目は市民アンケートで、市民の満足・不満、期待や不安といった市民意識を把握しています。 ・三つ目は現行計画の評価で、これまでの取組の進捗や、継続すべき点、見直すべき点を整理しています。 ・四つ目が社会潮流で、人口減少や防災、環境など、今後のまちづくりにおいて留意すべき視点です。 ・これら4つの視点を総合的に整理した結果、本市の都市づくりにおいて大きく5つの課題を整理しました。 ・本日の委員会では、この5つの課題を①災害リスク②自然環境③人口減少社会における都市構造（③～⑤）の3つのテーマに整理してご説明し、その都度ご意見をいただきたいと思います。 ・課題①の「災害リスクが内包された都市構造」について説明します。 ・基礎調査において、津波や洪水の浸水想定区域と居住地や都市機能が重なっていることが確認されました。特に沿岸部では、歴史的な経緯から災害リスクを抱えたまま集落や市街地が形成されてきた実態があります。一方で高台など安全性の高い地域も存在しており、安全性に空間的な差があるものの、これまでの都市構造が必ずしも安全性を踏まえて形成されてこなかった状況がうかがえます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートでは地震・津波への不安が非常に高く、危険区域での開発抑制や安全な場所への住み替え促進を求める意見が多く見られました。現行計画でも避難施設整備などの命を守る取り組みは進んでいるが、都市構造そのものと災害リスクの関係については、依然として整理が不十分となっています。 ・近年は「事前防災」や「事前復興」の考え方が重視されており、都市構造の段階から災害リスクを考慮することが本市の大きな課題となっています。
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・現況調査の結果からも、津波浸水想定区域内にかなりの数の建物や観光施設があることが示されました。これらを災害に強い形に変えていくことが求められるが、この点について委員の皆様から意見を伺いたいと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事前復興の具体的な概念について、改めて解説を願いたいです。
三宅副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事前復興の概念は阪神・淡路大震災後に出てきましたが、その頃から変化してきており、現在は災害が発生することを前提に、その後のまちの姿をあらかじめ見据えて計画することを指しています。 ・かつては災害後も同じ場所に住み続けるという前提であったが、現在はリスクを正面から見据え、移転という選択肢も含めて検討する考え方に変わってきています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・生まれ育った場所に住み続けたいという住民の思いがある中で、移転を議論するのは非常にシビアで難しい問題であると感じます。
三宅副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着だけでは解決できないのが災害の現実であり、大きな被害を受けた場合には、現在の段階から少しずつ形を変えていく議論が必要であると思います。
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災以降、都市構造そのものに災害リスクを考慮することが社会的な潮流となっています。伊勢市も含め、消防署や学校、保育園など、優先順位の高い公共施設から安全な場所へ移転させる検討は、多くの自治体で共通して進められています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現行計画の評価において「災害リスクが共有されている」との記述があったが、実態としてそこまで断言できるのか疑問が残るため、表現を検討すべきと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした項目の評価は、各担当部署のトップが作成しているのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・係長級の職員で構成する策定作業部会が各項目の進捗を整理し、総括や総合評価は事務局で行っています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の理由が分かりやすく可視化され、必要に応じて役所に確認できるような仕組みが望ましいです。過去の小学校統合の際も、津波リスクと地域への愛着の間で議論が紛糾した経験があるため、住民の立ち位置や認識の違いに十分配慮してもらいたいと思います。
アルパック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題②の「自然の豊かさを守り、活かす都市のあり方」を説明します。 ・志摩市には海、山、里地里山などの豊かな自然や景観資源がある一方で、その保全が生活利便性や移動の制約となっている側面もあります。 ・市民アンケートでは自然環境や景観の美しさに対する満足度が非常

	<p>に高く、定住意向にも大きく影響する魅力となっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行計画でも保全の方向性は示されているが、観光・レクリエーション地区におけるポテンシャルを十分に活かした機能誘導や環境整備は未だ十分ではありません。 ・今後は、自然を単なる制約条件ではなく価値として活かす「グリーンインフラ」等の考え方を取り入れ、暮らしや地域活力に繋げていくことが課題であると思われます。
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・観光とも密接に関係する内容であるため、委員から意見を伺いたいと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の豊かさは志摩市の特徴であるが、伊勢志摩国立公園内の建築制限等によって維持されている側面もあります。高台移転の選択肢がない地域もあり、住民の居住意向と国立公園の条件を加味した調整が必要です。 ・また、先般の大規模停電のような災害発生時における観光客への対応も、今後の取り組みとして検討すべきであると思ひます。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園内にも規制のレベルがあり、守るべき場所とそうでない場所で差があります。住居を建築する際に全く調整ができないわけではないため、今後の計画の中で調整を図っていくべきであると思ひます。
アルパック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題③から⑤をまとめて説明します。 ・まず課題③ですが、人口減少・高齢化の中で、暮らしに必要なサービスをいかに維持していくかという課題です。 ・本市では人口減少と高齢化が進んでおり、居住地も広く分散しています。都市機能は一定程度集積していますが、居住地との距離や・移動手段によって利用しやすさに地域差が生じています。 ・市民アンケートでも、医療や買い物など生活サービスの利用しやすさに対する満足度は低く、「買い物が不便」という理由で転居を考へるといふ回答も見られます。 ・次に課題④です。拠点間の役割分担と生活利便性の格差についてです。 ・市域内では人口動向や高齢化に地域差があり、生活利便性や移動のしやすさにも差が見られます。 ・中核拠点である鵜方駅周辺は一定の役割を果たしていますが、地域によって買い物利便性などの評価には差があります。 ・人口減少社会では、すべての地域で同じ水準の機能を維持することは難しくなるため、地域特性に応じた役割分担や地域間の連携が重要になります。 ・課題⑤は、自動車依存型の暮らしと移動弱者への対応です。 ・市民アンケートでは、通勤や買物の交通手段の約8割が自家用車となっており、自動車依存度が非常に高い状況です。 ・また、移動のしやすさに対する満足度は低く、半数以上が不満を感じています。 ・人口減少社会では従来型の公共交通の維持が難しくなることも想定されるため、公共交通だけでなく多様な移動手段を組み合わせた移動環境づくりが求められています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・以上が課題③～⑤の整理です。人口減少・高齢化の中で、本市の都市構造をどのように考えていくべきか、拠点や移動のあり方も含めてご意見をいただければと思います。
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に関連するこれら3つの課題について、意見を伺いたいと思います。
三宅副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層の約3割が市外への転出を希望している現状は深刻です。子育て世代に優しいまちづくりは結果的に高齢者にも優しいまちづくりに繋がるため、この視点でのまちづくりを真剣に推進すべきであると思います。 ・また、高台移転は高齢者にとって坂道などの移動の負担を生む可能性があるため、「バリアフリー」と「防災」の折り合いをどこでつけるか真剣に考える必要があると思われます。
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーと防災のバランスが偏らないよう、委員の皆様とともに考えていきたいと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現行評価における「自治会要望に基づく整備」の記述について、実際には要望の数パーセントしか実施されていないことから、実態に即した表現に改めてほしいです。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家問題や移住施策、起業支援策などは、提示された5つの課題のどこに分類されるのか確認したいです。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・空家問題や移住などは、自然環境、生活利便性、交通網などに関連するものですので、ひとつに包含されるとは言い難いです。 ・また、起業や生業などの話題は、もしかすると都市計画マスタープランではなく、他の関連計画に委ねる内容かもしれません。 ・都市計画マスタープランは総合計画で示す将来像を空間面からどのように実現していくかを考える計画です。しかし近年のマスタープランは幅広いテーマを扱う傾向もあります。そのため、この委員会でも幅広く意見をいただき、都市計画マスタープランで扱える内容は反映し、そうでない意見は関連計画にきちんとゆだねるように事務局で整理していきたいと思います。
三宅副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通については、20年後を見据えた自動運転技術の導入やインフラ整備も重要な視点ではないでしょうか。
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・電動アシスト自転車の普及がこの10年で大きく進んだように、技術の進歩を計画に組み込んでもらいたいと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の検討には、観光客の移動も含まれるという認識でよいでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客のアクセス性向上も重要な視点であり、今回の計画のなかで考えていく必要があると思っています。
4. その他	
浅野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議題はすべて終了しました。今日頂戴した意見は事務局で整理し、私と副委員長で確認した上で、次回に振り返りとして提示します。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の策定委員会は令和8年6月頃開催する予定であり、詳細は1か月前を目途に通知します。本日の内容に関する追加の意見は、3月23日を期限として意見記入用紙またはオンラインフォームで受け付けます。

事務局	<p>・委員の皆様の長時間にわたる協力を改めて感謝を申し上げ、第2回委員会を閉会したいと思います。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----	--